

国語科 学習指導案

1. 日 時 令和2年〇月〇日 (〇)

2. 場 所 第5学年〇組 教室

3. 学年・組 第5学年〇組

4. 単元名 説得力のある意見文を書こう
「あなたは、どう考える」 (使用図書・教科書：光村図書)

5. 単元の目標

- ・目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけた
りして、伝えたいことを明確にすることができる。 【思考・判断・表現】 B(1)ア
- ・目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫
することができる。 【思考・判断・表現】 B(1)ウ
- ・文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいと
ころを見つけることができる。 【思考・判断・表現】 B(1)カ
- ・文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。
【知識・技能】 (1)カ

6. 本単元で取り組む言語活動

自分の考えの理由と根拠を明確にし、他の立場からの反論をいかして、より説得力のある意見文を書く。

7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。 (1)カ	①「書くこと」において、目的や意図に応じて感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけた りして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ②「書くこと」において、目的や意図に応じて事実と感想・意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ③「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)カ)	自分の考えが伝わるように粘り強く書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、意見文を書こうとしている。

8. 指導にあたって

(1) 児童観 ※省略

(2) 教材観

本教材は特徴が3つある。

1つ目は、投書をもとにして自分の考えをもつ「題材設定」の活動である。3つの題材の中から自分が関心のある題材を選び、選んだ題材に対して、自分の考えを持つとともに、説得力のある意見文の書き方を学習する。

2つ目は、自分の考えを支える理由や根拠を集める「情報収集」の活動である。読み手を納得させるためには、よい理由が必要である。さらに、その理由を支える根拠が示されると説得力が増す。根拠を述べるときは、それが自分の体験であるのか、人の話したことであるのか、何かに書かれていたことであるのかなど区別して書く必要があることに気をつけていきたい。

3つ目は、自分の主張を他の立場から見直す「内容の検討」の活動である。他の立場を想定することは、ただその意見を打ち消すだけではなく、読み手が抱く疑問や反論に対して配慮する態度を見せるとともに、客観的に検証されている文章であることを伝えることにつながる。つまり、文章の説得力を増すことにつながるのである。そして、自分の主張を見直すことにより、さらに情報を集める必要があることに気づいたり、自分の考えを深めたりすることに繋げたい。

(3) 指導観

本単元では、友だちが納得するような意見文を書くという目標を設定し、単元全体を通して児童が目的意識を持って学習に取り組めるようにしたい。

読み手が納得するような説得力のある意見文を書くためには、それがどういうものを理解する必要がある。そこで、学習に入る前に新聞記事や投書を読む時間を設定する。新聞記事や投書を用いることで、実社会とつながりをもたせ、児童の主体性を喚起できればと考える。その際は、多様な考えや根拠をもつことができる記事を選びたい。

また、本教材では、いくつかの文例が示されている。書き表し方の工夫を見つけ、書く際にいかせるようにしたい。特に、説得力のある文章にするための理由や、根拠の示し方や自分の主張を他の立場から見直すことによさに気付かせていきたい。

本時では、友だちと意見交流することを通して、理由や根拠の選択に助言をもらったり、反論を想定する手がかりを得たりしていきたい。この過程を大事にしながら、丁寧に検討することで、物事を少しでも深く考えられるようになればと思う。

9. 単元の指導と評価の計画（全7時間）

時	主な学習内容	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	○新聞の記事から、身の回りの事柄について関心を持ち、学習課題と学習計画を立てる。 ○題材を決める。 ○次時の学習の見通しを持つ。	・感想を出し合い、関心を深める。 ・関心のあることから題材を選び、自分の主張を考える。理由は付箋に書きだしておく。	[思考・判断・表現①] (発言・記述)
2	○作例を読み、書き表し方の工夫を見つける。 (理由・根拠・反論に対する考え) ○理由、根拠の違いを学ぶ。	・説得力ある文章にするための理由や根拠の示し方の工夫捉えさせる。 ・反論の必要性について考えさせる。 ・調べる必要がある事柄は、学校図書館などを活用して材料を探すことを伝える。	[知識・技能] (発言・記述)
3 (本時)	○理由、根拠を書く。	・理由と根拠の違いを明確にさせ、書き方の手立てを示す。 ・友だちの理由と根拠を読み合い、助言をもらうことで自分の意見を見直す。	[思考・判断・表現②] (発言・記述)
4	○反論を考えて書く。	・他者の立場となって考えることを意識する。	
5	○意見文の構成を検討する。	・「中」の理由や根拠に何を並び、どのように並べたら効果的であるかを考えさせる。 ・反論から、それに対する自分の考えをまとめさせる。	[主体的に学習に取り組む態度] (発言・記述)
6	○考えた構成を基に意見文を書く。	・書き出しの例や事例の述べ方の例など、実際に書くときの手だてを提示する。	
7	○意見文を読み合い、感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。	・文章のよいところを中心に伝え合い、できるようになったことを児童自身が感じられるようにする。	[思考・判断・表現③] (発言・記述) [主体的に学習に取り組む態度] (発言・記述)

10. 本時の展開（3/7時間目）

(1) 本時の目標

説得力のある理由と根拠を考え、書くことができる。

(2) 本時の評価規準

【思②】材料を分類したり関係づけたりし、説得力のある理由や根拠を書いている。[発言・記述]

(3) 展開

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
2	前時を振り返る。		
	〈めあて〉 説得力のある理由や根拠について、友だちと読み合って考えよう。		
5	理由と根拠について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文例をもとに、理由と根拠の違いを明確にする。 	
5	自分の主張を支える理由を書く。 【書きタイム①】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書きにくい場合は、掲示している友だちの意見を参考にしてもよいことを伝える。 ・ 理由はできるだけ短い文章で書くように意識させる。 	
3	説得力のある根拠の書き方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「経験・体験したこと」「見たり聞いたりしたこと」「資料などからわかること」の3つのポイントをおさえ、それぞれの書き方の例を示す。 	
5	根拠を書く。 【書きタイム②】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 机間指導をおこない、書くことに困っている児童には、声をかけ体験などを思い出させる。 	
15	友だちの構成メモを読み、説得力のある理由と根拠になるように助言し合う。 【伝えタイム】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「～に変えたほうがいい」「～を付け加えたほうがいい」など具体的な助言の仕方を共有する。 	
5	友だちからの助言をもとに、自分の書いた理由や根拠を見直す。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の書いた文章を消すのではなく、必要な言葉などを書き加えるように声をかける。 	<p>【思②】材料を分類したり関係づけたりし、説得力のある理由や根拠を書いているかを確認する。 [発言・記述]</p>
5	本時の振り返りをする。 ・ 次時の学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のめあてを確認し、達成できたかどうかを振り返る。 	

(4) 本時における具体的な児童の状況（※本時の評価規準に関わる場面において）

満足できる状況（A）	おおむね満足できる状況（B）	努力を要する状況（C）への手だて
自分の主張を支える理由と根拠の違いを明確にするとともに、説得力のある根拠の書き方の例から複数のポイントを踏まえて根拠を書いている。	自分の主張を支える理由と根拠の違いを明確にしながら書いている。	掲示されている友だちの意見や、友だちとの対話を通して、理由や根拠を見つけられるようにする。